



運の良し悪しをどう教えるか

渡辺先生こんにちは！

不便益のアイデアについて考えてみました。

私自身や夫は、実際に仕事と育児との忙しさの中で効率を最優先に考えて生活しているのが現状です。

ある時、移動の手段を考えていた時に息子が

「タクシー呼べばいいじゃん」と発言した事が結構衝撃的で、
いやいや歩きましょうよ！バスだってあるし！と、危機感を覚えました。
それがキッカケでマナカカードを作りました(><)

子供達には、決して今の環境が当たり前ではない事、パパやママはたくさんたくさん努力しているから今がある事を伝え続けたいと感じています！

別件なのですが。。

今日、息子が

「俺は運が悪いから」
と発言していました。

発端は、妹が

「私は運がいいの。今日もクラスのルーレットでリーダーを決めたのだけ
ど私になった。私は運がいい。」

と。

私自身も幼い頃から

「ツイテル！ ツイテル！！」

精神で今まできた経緯があり、息子の発言に少し戸惑いました。

渡辺先生ならどんな声掛けをしますか??

ペンネーム「ブルーハワイ」さんより

ブルーハワイさん、いつもお便りありがとうございます。

不利益についてのご感想もとても嬉しいです。

私も、自分の子どもたちだけでなく、学校でたくさん子どもたちに接する中で、「ありがたみが急速に損なわれている場面」に遭遇するたびにショックを受けることが少なくありません。

そして、そういう時にこそ、知恵を絞り、工夫を凝らして、子どもたちの心に届く・響く形で言葉を紡ぎたいと思っています。

「運の良し悪し」についても同様です。

せっかくブルーハワイさんからお便りをもらったので、今日の朝の会でこんな話をしてみました。

自分は、運がいい方だと思いますか。悪い方だと思いますか。

このように聞いてみました。

「運がいい」に手を挙げたのが 3 人、あとは全員が「運が悪い方」と答えました。

続けて、松下幸之助の話をすることに。

最初に、どのような経営者であったかを簡単に説明しました。

日本を代表する名社長の一人であること。

パナソニック（もとは松下電器）を作った人物であること。

「経営の神様」との異名までとっていること。

子どもたちには、何となく「すごい人」という事が伝わったようでした。

（その人知ってる！と答えた子たちもいて驚きました。）

そして、本題の話に入りました。

松下幸之助が、新入社員の面接をしている時に、必ずしていたとされる質問があります。

それが、「あなたは運がいいですか？」という質問です。

松下幸之助は、どちらかの答えをした人を積極的に採用したそうです。

では、どちらの答えが採用されたのか。

子どもたちにも、考えてもらいました。

「運が悪い」と答えた人を採用すると考えた子たちは「今まで運が悪かったんだから、これからは良くなるだろう」と考えた子が多かったようです。

反対に「運が良い」と答えたほうを採用すると考えた子たちは、「運が良いと自信のある人を採用したと思う」とのことでした。

そして、正解を告げました。

松下幸之助は、「運がいい」と答えた人を採用しました。

反対に、「運が悪い」と答えた人はどんなに素晴らしい学歴であっても、落としたそうです。

驚きの声が上がりました。

様々解釈はあるだろうが、次の事がよく伝え聞く話です。

○「運がいいと答える人は・・・」

- ・周りの人に助けられてきたという「感謝」の気持ちがある人である。
- ・たとえ逆境に陥っても、運のせいにせず前向きに取り組める人物である。

対して、運が悪いと答える人は、この反対の傾向にあるのだとか。

「運がいい」と答えた人も、大人になるまでの間に困ったことや嫌な事がきつとあったに違いありません。

けれども、なぜ「運がいい」と答えたのか。

それは、困ったことや嫌なことの「受け止め方」が少し違うからではないかと思います。

同じことが起きても、「ツイてない」「最悪だ・・・」と感じる人がいれば、「これを次に生かそう」と考える人もいます。

先の人にとって見れば「不幸」なことが、後の人にとってみれば「チャンス」となっています。

極端な話をすれば、我々の人生において「良い」・「悪い」は存在せず、ただひたすらにどのように受け止めるかという「選択」が存在しているとも言えます。

かの有名な哲学者も、次のように語りました。

「事実などない。あるのは解釈のみである。」

受け止め方をどのようにしていくか、心の学びとして大切な視点なのだと思います。

合わせて、松下幸之助の次のエピソードも紹介しました。

「経営の神様」と呼ばれる松下幸之助は

「自分を出世させたのは、次の3つのことしか考えられない」と生前のインタビューに答えました。

その“3つ”とは、一体何か。

これです。

1つ目は、家が貧乏だったこと。

2つ目は、学校へ行っていないこと。

3つ目は、病気がちで体が弱かったこと。

小さい頃から、自分の家は貧しかった。

そのおかげで、お金の大切さを誰よりも感じる事ができた。

他の人が、高校・大学へ行く中、自分は小学校しか出ていない。

そのおかげで、人一倍本を読んで勉強をしようと思えた。

身体が病弱で、目一杯体を動かすことができない。

そのおかげで、人に頼り、人を大切に育てることを学んだ。

このように、「経営の神様」は答えたわけです。

貧乏も、学校に行っていないことも、病弱だったことも、これらは全て環境要因です。

外部からの刺激です。

でも、松下幸之助は、それによって自暴自棄になりませんでした。

丁稚奉公に出されている間も、人のためにひたむきに働きました。

学校へ行っていない。

だから、会社に入ってくる人は自分以外みんな高学歴。

そんな状況だからこそ、大人になってからも「人一倍本を読もう」と考えたそうです。

病弱を言い訳に逃げることもしませんでした。

むしろ、それを逆転の発想で考え、人を大切に育てることを学ぼうとしたのです。

「貧乏だから～～ができない」

「頭が悪いから～～は難しい」

「力が無いから～～は不可能」

こうした「刺激即反応」の生き方を、松下幸之助は一切していなかったのだと思います。

外部要因、環境要因によって、人生は決まりません。

そのことをどう受け止め、反応するかによって、人生は決まります。

だからこそ、この「選択力」「解釈力」は人生を大きく変える力になり得るのだと思います。

教室ではこれをもう少し易しくして伝えた上で、もう少しだけ身近なエピソードも紹介することにしました。

以前担任した、4年生のクラスで起きた出来事です。

その日も、今日と同じように大雨が降っていました。

当時の学級通信から引用します。(ちなみに、この通信を渡した当時4年生の男の子が、先日15歳になって札幌から愛知まで一人やってきた教え子です。今は甲子園目指して名門校で練習に励んでいるそうです。)

=====引用ココカラ=====

日曜日に開催された運動会。

朝からどんよりした空模様で、今にも一雨きそうなお天気だった。

その予感、現実のものとなった。

しとんと降り始めた雨は、徐々に雨足が強くなり、ついには大雨に変わった。

さすがに、続行は難しかった。

子どもたちの健康面を考え、やむなく運動会は半分ほどの競技を残して中止となった。

ごく普通に考えれば雨は「あいにくのお天気」であり、会の中止は「残念な結果」となるのだろうと思う。

でも、「お天気」という人間の力ではどうにもならないことで、せっかく開催に至った運動会に全員が落胆し、肩を落として帰るのはあまりに勿体ないことではないだろうか。

そのようにも考えた。

だから、体育館に途中で移動した時に次のことを聞いてみた。

こういう事態でしょんぼりするのとはごくごく普通のことです。

でも、だからこそこういう時に「喜びの種」が見つけれられる人、目を向けられる人はすごいんだと思います。

そういう人は、まさに「運がいい人」だと言えるでしょう。

今日の運動会、何か一つでも「よかったこと」が見つけれられる人？

あっという間に子どもたちの目の色が変わった。

「お父さんが休みをもらえるのが今日だけだったから、できてよかった。」

「台風が目がすごく面白くて、いつもより上手に跳べたことです。」

「お弁当をこの後時間を気にせず食べられます。」

「雨の中でみんなでキャーキャー言ったのが面白かったです。」

「全部はできなかったけど、みんなで競技が出来て楽しかった。」

他にも続々意見が出てきて、「僕一つじゃなくてたくさん言えるよ！」なんて子も出始めた。

また、「中止になっちゃったけど、その分この後家でゆっくりできます。」

「午前で終わったからこの後思い切り遊びます！」という意見が出たときは、みんなで大いに笑った。

さっきまでの沈んだ空気が嘘のような、楽しい雰囲気があるところにはあった。

雨で、途中で、中止。

そこだけを見ればきっと残念な気持ちになると思うが、きっと見るところや見方を変えれば、色んな所に喜びの種が眠っているのだと思う。

いろんな見方で今年の運動会を楽しく振り返ったみんなは、とても「カッコよかった」と私は思う。

晴れで喜ぶのは当たり前だ。

特に練習するまでもなく、誰だって自然と喜べる。

だからこそ、大切なのは「雨の時にどう喜びを見つけるか」というお勉強なのではないかと思う。

私の中では、そうした学びのチャンスを得られたことがうれしかったし、みんなが前向きに物事を受け止めようとする姿が見られたことも有難かった。

もう一つ言うと、一番良かったのは、やはりクラス 30 人全員がそろって運動会に参加できたことだ。

当たり前のように思うかもしれないが、一人残らず元気に参加できたことはこれ以上ないほど私にとってうれしく、喜ばしいことだった。

「ユーモアとは、にもかかわらず笑うことである。」

という言葉がある。

私の好きな言葉だ。

喜び上手・笑い上手なんて言葉があるが、この「上手」が差すところは単によく笑い、よく喜ぶことではないと思っている。

楽しい時に、人は笑う。

嬉しい時に、人は喜ぶ。

だが、「喜び上手」「笑い上手」とは、悲しい時大変な中にも喜びの種を見つけられる人のことを指すのだろう。

これは、世界の様々な分野で第一線を走る人たちが、異口同音に伝えていることでもある。

喜び上手を目指し、私自身も子どもたちと一緒に学び続けていきたい。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝引用ココマデ＝＝＝＝＝＝＝＝＝

ここまでを伝えた上で最後にもう一度、子どもたちに今までの人生を振り返ってもらいました。

そして、最初の質問を再度投げかけました。

自分は、運がいい方だと思いますか。悪い方だと思いますか。

大多数が、明るい表情で「運がいい」と答えました。

とてもいい笑顔でした。

丁度よい機会でもあるので、来週の火曜日の道徳の時間にこの「運の良し悪し」について少し詳しく教える事にします。

もしご都合の良い方がいらっしゃいましたら、ぜひその時間に参観にお越しください。

6時間目（14：40）より授業を行います。

お家の方々とも共に学ぶことができれば嬉しいです。

ブルーハワイさんのおかげで素敵な学びの機会が生まれそうです。

素敵なお便り、誠にありがとうございます。

☆↓読者ページはこちらから↓☆ご意見ご感想など気軽にお寄せください

<https://docs.google.com/forms/d/1qqf4cPLcjpcWaimWdu-6IFM73JahODYK4ROldg7jLxM/edit>

